

南砺地方の木と全国の県木等約200本入植の森

8月4日（土）午前中、猛暑の中での見学会を、11名の参加で県立福野高校「学校の森」と、稲垣博さん宅の屋敷林で行った。

「学校の森」は島田誠治先生（小矢部高校）が、その奥の国指重要文化財「厳浄閣」を竹下宏子氏（同窓会事務局長）の説明と案内で見学した。

高校正面右側のエリアが学校の森で、その奥に「厳浄閣」がある。学校の森見学の思いを柏樹代表幹事が行って（別掲）、島田誠治先生が林内を歩きながら案内した。

＜島田先生の案内要旨＞

創立百年を迎え平成3年に、学校庭園計画を立案し、平成6年に厳浄閣前につくった。果樹園や農場のつぶされることが淋しかった。

基本コンセプトは

- 1) 土と緑と水を中心に舗装やコンクリートは使わない。
- 1) 生徒の休める空間として活用。
- 1) 全国の県木の導入（沖縄だけなし）、地元の名のわからない木の導入。
- 1) 生徒と苗をつくり、森にしていく。

園地には約200本の樹木が入る。

－入っている主な樹木の案内－

- ・カイノキ（中国の孔子陵にある木で、県内唯一、種子から育てた）
- ・アカエゾマツ（北海道）
- ・キタヤマスギ（台スギとして株立ち丸太に。5本、7本と立てる）
- ・アキタスギ（成長は遅い。さし木）
- ・タブ（ツマゴ、実がなり、薬用に）
- ・スダジイ（シイノキともいうがツブラジイとスダジイをさしての名）
- ・ハナノキ（岐阜、愛知の山にある）
- ・ラクヨウショク（スギの仲間、葉が交互になっている。水辺に強い。倒れない）
- ・メタセコイヤ（葉は対生。倒れやすい）
- ・カンボク（赤い実がなり、鳥がよろこぶ）
- ・ケヤキ（県内のものは単木で立ち、雪に強い。太平洋のものは株立ち）
- ・ハンカチノキ（花がきれい、虫がこない）
- ・クヌギ（ドングリの実）

－カイニョへ進めたい木－

- ・クスノキ（虫がつかない。日本一大きくなる）
- ・スギ（一番長生きする木）、カツラ（狭いところで育つ。紅葉）
- ・ハンノキ（成長良、病気など手入れ不要）、ノリウツギ（庭木によい）
- ・サンシュウ（庭木によい、実がつく）

－この他林内にある樹木－

アオナラ、アカガシ、アベマキ、アラカシ、イチョウ、ウラジロガシ、ウラジロモミ、エゾマツ、エノキ、カシワ、カラマツ、カリン、キタコブシ、コナラ、サンゴジュ、シラカシ、**ストロウブゴヨウマツ**、ツクバネガシ、トチノキ、トドマツ、ナナカマド、ナンブアカマツ、ハクウンボク、バンクスマツ、ヒノキ、ブナ、ムクノキ、モクゲンジ、モミジバフウ、ラクウショウ、リキダマツ、レッドオーク、ワナシ、ウバメガシ（特徴も含めエピソードも加えて案内いただく。）

このほとんどは種子から苗を育て、大きくして植付けた。生徒も実習として参加した。

■厳浄閣の案内・竹下宏子氏

明治27年 農学校として創立

明治36年 農学校本館として建設。宮大工の藤井助之丞が建てた。島厳翁が浄財の協力をした。

昭和43年 移築修理——厳浄閣と命名 本館の一部を残し現形に至った。

平成9年 国の重要文化財に指定

平成14年～17年

復元保存修理

1階は学習室、資料展示室、二階は講堂で常設展示、企画展を催す。

こうした説明を受け、館内の案内をしてもらった。

＜柏樹代表幹事の冒頭コメント＞

- 1) 校舎をつつみ敷地には700本の樹木が入る。この厳浄閣前には200本の学校の森がつくられている。これだけの樹木の生息環境の学校は他にはない。
- 2) その歴史と思いを語ってもらう機会として貴重だ。
- 3) この森のあることに住民が関心をもち交流することが大事だ。
- 4) カイニョにどんな木を入れたらよいかのヒントをつかみたい。

注目されるケヤキの相観

高校から車で移動し、稲垣博さん宅（南砺市軸田屋）の屋敷林を見学した。柏樹代表幹事が「ケヤキを中心にしたカイニョで一つのカイニョの形としての貴重だ。ケヤキですっぽり家屋をつつむ相観のカイニョはわずかしかない」と紹介し、当主の稲垣さんの案内で屋敷内を散策した。

■稲垣 博さんの案内

ケヤキの大木のある家は、この近くでは3軒しかない。前庭のケヤキは樹高31m、周囲直径3.8mで井波町の保存樹木になっている。家の後ろ側の2本は庇近くまで大きくなっていた。

スギも多かったが、供木と台風で減った。その内の1本の根元近くで衝立をつくった。家の後ろから裏方にはマスマスギを植えた。下屋には雨樋をつけていない。前側の庇は2寸5分板を使い、ソリには工夫した大工の腕がみられ美しい屋根になっている。

広間の材料のほとんどはケヤキを使っている。

ケヤキとスギの高木が家屋をおおっているが、下枝がおろされ林内は割合に明るい。外の戸をあけると風通しが良く涼しい。

特別に手をかけた庭木は入っていない。

× × ×

屋敷林内を一巡した後、前庭のケヤキの樹高測定を和田健さんの簡易測定器（ボール紙と糸とおもりで作る）で実習した。底辺を測定し、そこに立ってケヤキの頂部をのぞき、つり糸の止まる樹高値を読み取るもの。

又、家の管理や、風の心配、草取り等について話を聞いた。

正午近くで見学会を終えた。

模様を富山新聞が取材し、6月5日朝刊に報道した。

ケヤキの「アカ」「アオ」

大工さん等がケヤキの立木（成立している木の状態）の建築材としての値打ち区分を「アカ」とか、「アオ」とか、判断している。「アカ」ケヤキは良材、高級建築材としている。

その見分け方は、「アカ」幹の樹皮がめくれ、皮がはがれている。そのため樹皮の色は白、灰、茶褐色がまざっている。「アオ」は樹皮がすべすべで全く皮むけがみられずややネズミ色の単色のもの。成長差はない。

又、単木で直立のものは雪に強く、北陸のケヤキであり、県内の条件にあった潜在性のもの。最近庭木に入っている株立、ホウキ状のケヤキは太平洋産のもので雪に弱い。雪吊りが必要で北陸では手間がかかる。



福野高校「学校の森」で島田先生の説明を聞く



「厳浄閣」で竹下宏子さんの授業を受ける



稲垣博さん宅を見学



ケヤキの高さ測定

安曇野市から屋敷林見学に

8月25日（土）安曇野市の「屋敷林と歴史的なまちなみプロジェクト」のメンバー11名が砺波平野の屋敷林を見学し、当倶楽部と意見交換した。

大変あわただしい日程の中、南砺市、和田健さん宅、根井仁一さん宅、杉森貢さん宅の3軒と砺波市 新藤正夫さん宅の4軒の特徴あるカイニョを案内し、閑乗寺高原から砺波平野の全容を遠望した。その後約1時間、散居村ミュージアムで意見交換会をおこなった。（当倶楽部から世話役6名が参加した）



杉森さん宅見学